

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報



一般社団法人  
大学女性協会

第287号  
2026年3月



## 特集 2026年度全国総会・第15回定時会員総会ご案内 国内奨学金贈呈式

会長挨拶……………	2	調査・研究委員会報告……………	9
東京総会実行委員長より		文化交流委員会報告	
2026年度全国総会・第15回定時会員総会……………	3	支部だより特別編 セミナー発表6支部…	10~11
開催概要		岡山・仙台・新潟・札幌・東京・長崎	
国内奨学金贈呈式……………	4~6	お知らせ……………	12
「新春のつどい」報告……………	7	守田科学研究奨励賞授賞式、	
次世代につなぐ会		パトリシア募金寄付者ご芳名、	
第19回Jカフェ報告……………	8	文楽の魅力、初夏のコンサート、	
コンサート報告		新入会員、理事会から	

# 大学女性協会創立80周年を迎えて

会長 長谷川瑞穂



首都圏では快晴に恵まれ、穏やかな2026年の幕明けとなりました。毎年元旦は19時からのウィーンフィルニューイヤーコンサートを楽しみにしております。今年はネゼ・セガン氏による指揮で、選曲も多様性に富んでおりましたが、最後に指揮者が客席と一体となり、平和を訴えた素晴らしいものでした。2026年が平和な年となりますよう、祈るばかりです。

本年は大学女性協会創立80周年という節目の年ですが、午年にふさわしく飛躍の年にしたいと思います。大学女性協会は以下の3目標のもと活動をしてきました。

本年は大学女性協会創立80周年という節目の年ですが、午年にふさわしく飛躍の年にしたいと思います。大学女性協会は以下の3目標のもと活動をしてきました。

- (1) 女性の高等教育の向上
- (2) 男女共同参画社会の推進
- (3) 国際協力と世界平和

目標(1)に関しては、本年も奨学金事業や若手女性科学者海外研修助成事業で高等教育を推進していきます。目標(2)に関しては、秋のシンポジウムや講演に盛り込みたいと思います。2025年はEXPO2025でのイベントやザンビアでのGWI総会への会員4名の参加など、国際色豊かな年でした。本年は5月18日～20日にUWAsiaの総会が東京で開催される予定で、目標(3)の国際協力を推進したいと思います。海外のGWI会員の皆様と交流できる良い機会だと思いますので、是非多くの皆様にUWAsiaの総会にご参加いただけますようお願い申し上げます。

大学女性協会の80周年記念行事は、5月17日定時会員総会終了後の午後に行う予定です。メインイベントは東京大学大学院教授の加藤陽子氏による公開特別講演です。演題は「過去を振り返る時、歴史が生まれるー戦後80年の意味と日本の近代」です。会員の皆様には事前に加藤氏のご著書『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』(2009年・朝日出版社、2016年・新潮文庫)をお読みいただくようお願いいたします。第2次世界大戦後に確立された世界秩序が崩れ続けている昨今、加藤氏の講演は、過去に学び、a世代をはじめとする次世代にどのような社会を引き継いでいくかなど、厳しい状況の中での日本の今後を考える良い機会となることと思います。講演後の全国総会では、80周年記念誌「HERitage 80」を紹介しながら大学女性協会の80年

の歩みを顧みたいと思います。「HERitage 80」はGWIの会員にも大学女性協会の歴史などを知っていただきたく、写真を多くし、日本語と英語のバイリンガル表記としました。先輩諸姉が当協会の意義を深く理解し、知力、労力などを惜しまず献身的な努力をして頂いたことに感謝の意を捧げたいと思います。そして続く私たちも次世代のために頑張らねばならないとの思いを強くしました。

移行法人後に関しては、最善の在り方を理事会が資料やデータの分析、聴き取り等多角的に検討し、もう少し先の定時会員総会で審議、決定することになると思います。

最後に、皆様のご協力でパトリシア募金は目標額を達成できましたが、移行法人後の活動に向けて募金を続ける予定です。引き続きよろしくご協力をお願い申し上げます。

本年もご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

## 2026年度東京全国総会に是非ご参加ください

東京総会実行委員長 秋光正子

2026年度の全国総会は5月17日、東京で開かれます。只今、本部理事会、委員会、東京支部が協力し合って準備を進めています。

2026年はJAUW創立80周年に当たります。総会当日の午後は、80周年記念講演会として歴史学者の加藤陽子氏を講師としてお迎えし、「過去を振り返る時、歴史が生まれるー戦後80年の意味と日本の近代」との演題で日本の80年の来し方行く末をともに考える深く貴重な講演をしていただきます。続く本部主催の全国総会では、只今編纂しています「JAUW80周年記念誌」を皆様にお配りし、写真をご覧いただきながらこれまでの80年を振り返ります。夕べの80周年記念懇親会ではホテルでお食事をしながら海野幹雄氏によるチェロ演奏をお楽しみ頂きます。

翌18日の研修旅行は、19日から開催されるUWAsia総会に参加されるアジア各国からの方々と、東京ならではの名所を巡る合同バスツアーです。収益事業委員会と親睦事業委員会が企画運営に取り組んでいます。

この総会を通して会員皆様の交流が深まり、さらにJAUWの活動を支えあう力となることを願いつつ、全国の皆様のご参加をお待ちしております。

# 2026年度全国総会・第15回定時会員総会 開催概要

2026年5月16日(土)～18日(月) 開催地：東京

2026年度全国総会・第15回定時会員総会を下記の日程で開催いたします。

今年度の総会では、JAUWの80周年記念催事もございます。皆様お誘い合わせのうえ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

## 1. 総会日程

会場：KKR ホテル東京（東京都千代田区）

★5月16日（土）

【支部長会】14：00～16：00（11階 丹頂の間）

★5月17日（日）

【第15回定時会員総会】9：30～12：00（11階 孔雀の間）

【昼食・休憩】12：00～13：00

【80周年記念講演会】13：15～14：30

【全国総会】15：00～16：30

「80周年記念誌」に基づく報告

【80周年記念懇親会】17：00～19：30（10階 瑞宝の間）

\*バザー 5月17日（日）9：00～16：30 開催（孔雀の間）

\*80周年記念講演会／一般公開

「過去を振り返る時、歴史が生まれる－戦後80年の意味と日本の近代」

講師：歴史学者 加藤陽子氏

\*80周年記念懇親会アトラクション

海野幹雄氏によるチェロ演奏

★5月18日（月）

【研修旅行】9：30～15：30

東京名所めぐり：UWAsia総会参加者と合同バスツアー

KKR ホテル～皇居～東京タワー～浜離宮～浅草寺～

東京スカイツリー／ソラマチで昼食～KKR ホテル

## 2. 参加費

総会費 3,000円

昼食費 2,500円

懇親会費 13,000円

研修旅行費 10,000円

## 3. 宿泊

宿泊の方は各自でご希望のホテル・旅館等の予約をお願いいたします。JAUWとしての特典や予約手配はございません。

## 4. 申込方法

①別紙の申込用紙に必要事項を記入の上、**3月25日（水）までに各支部長へ**申込書をご提出ください。支部長は出席者を取りまとめ「支部出席者まとめ書」用紙を**3月31日（火）までに**本部事務所jauw@jauw.orgへお送りください。

②参加費（総会費、懇親会費、昼食費、研修費）の送金は**4月7日（火）までに**、郵便振替で下記の口座に個人別にお振込みください。（別送の総会申込書等に同封の払込取扱票をご利用ください。**通信欄に必ずご参加項目、支部名をご記入願います**）

振込先 口座番号：00110-7-323298

口座名称：一般社団法人大学女性協会

③総会・昼食・懇親会のキャンセルは**4月30日（木）まで**、研修旅行は**4月27日（月）まで**とします。ただし、**総会費3,000円は返却できません**のでご了承ください。

④研修旅行は定員（60名）に達するまで**払い込み先着順**で受け付けます。

ご不明の点がありましたら下記にお問い合わせください。

JAUW 本部事務所 TEL：03-3358-2882

FAX：03-3358-2889

メール：jauw@jauw.org

研修旅行についてはメール：uwasia2026@jauw.org 宛て

## 5. KKR ホテル東京へのアクセス

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

TEL：03-3287-2921（代表） FAX：03-3287-2913

## 【アクセスマップ】



## 最寄り駅

- ・東西線「竹橋駅」3b 出口直結：徒歩3分
- ・千代田線「大手町駅」C2出口：徒歩7分
- ・都営地下鉄「神保町駅」A9出口：徒歩7分
- ・東京駅：徒歩20分

※タクシーをご利用の際は、東京駅（約5～10分／丸の内南口）より「KKR ホテル東京」とお伝えください。

## 会員の皆様へのお願い

4月下旬に「第15回定時会員総会開催通知」と「総会議案書」「議決権行使書」を正会員の皆様へ発送いたします。**「総会議案書」は、必ずご確認ください。**

定時会員総会は重要な総会ですので、正会員の皆様には万障お繰り合わせの上ご出席をお願いいたします。欠席の場合は「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上、**5月8日（金）（当日消印有効）までにポストに投函**ください。

JAUW 新春のつどい 第1部

国内奨学金贈呈式

2026年1月10日（土） KKR ホテル東京・孔雀の間にて

第78回一般奨学生・第35回安井医学奨学生選考にあたって

国内奨学委員長 窪田憲子

戦後ほどなく設立された大学女性協会の一般奨学金は、まもなく80年の歴史を迎えようとしております。故安井潤氏の遺贈金を基にした安井医学奨学金も、35年の歴史を重ねてきました。「将来のリーダーになり得る優秀な女子学生に学資を授与し、勉学や研究活動を奨励する」ということを奨学金の趣旨にかかげて女子学生を支援してきた国内奨学金ですが、昨今の物価の上昇を鑑み、今年度、一般奨学金および社会福祉奨学金に関しては、一律10万円増額することができました。

また、従来、各大学に郵送で応募を依頼しておりましたが、今年度からEメールによる応募依頼に切り替えました。6月に本協会の22支部を経由し、全国の200を超える大学へメールで募集依頼をしました。同時にホームページからの募集も行いました。応募総数は74名でした。そのうち一般奨学金応募者65名の一次選考を各支部で行い、39名を選抜しました。安井医学奨学生については、6名の応募がありました。

国内奨学委員会では、羽生香織選考長を中心に、応募者の研究遂行能力、研究業績、将来性、リーダーとしての資質・熱意、さらに博士課程前期・後期のバランス、地域のバランスを考慮しながら本選考を行い、国内奨学生候補とし、理事会の承認を得ました。

一般奨学生の研究テーマとしては、介護と災害に関連する研究が今年度も増加している傾向にありました。ここ数年、理系が多い傾向が続いておりましたが、今年は文系の研究がやや盛り返したように思われます。ただ、昨年同様に今年もまた文学研究が極端に少なかったことは現代日本の一面を映しているのかもしれませんが。

今年もまた優れた応募者が多く、全体的にも、高いレベルが維持されておりました。そのような中で、国内奨学生を選出できましたことを、ご協力賜りました関係者の方々、全国支部の方々に感謝申し上げます。



左側：遠藤理枝委員長、右側：窪田憲子委員長

第54回社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長 遠藤理枝

社会福祉奨学生に関しても国内奨学生と同様に募集を行いました。今年度の応募者は、大学院生2名、学部生1名でした。当委員会では委員10名で厳正かつ慎重に選考し、身体に障害を持つ学業・人物ともに優秀で、将来リーダーとなり得る大学院生1名を推薦し理事会で承認を得ました。残念ながら学部生は該当者無しと判定しました。

今年度の応募者が今迄になく少なかったのは何故か。障害を持つ学生の比率が減少しているわけでもないの、今年度に限ってのことなのか。今後の傾向を注視するとともに応募者の増加を図る工夫を検討したいと思っています。

ホームズ奨学生

ハザードマップ地図面のデザインに関する研究



兵庫県立大学大学院  
減災復興政策研究科 減災復興政策専攻  
博士後期課程3年

まえばやし あき  
前林明日香

本研究は、災害時に命を守るための重要な情報源である「ハザードマップ」の地図面に注目し、その「見せ方（デザイン）」がどのようなものであれば市民の正確な情報理解につながるかを検証することを目的としています。近年、豪雨や洪水などの自然災害が増加し、行政による情報提供の重要性が高まっていますが、自治体ごとに表現方法が異なり、「見づらさ」や「わかりにくさ」が課題とされています。命に関わる情報である以上、誤解を招かない表現も不可欠です。そこで本研究では、「わかりやすく、誤解されにくい」ハザードマップの表現とは何かを実証的に調査・分析しています。本研究により、「直感的に理解できる、誤解の少ないハザードマップの表現方法」が明らかになると期待されます。

この研究の魅力は、表現という一見小さな要素が、人の命を左右する可能性を持つという点にあります。防災は命を守る営みであり、そのための情報が正しく伝わることは欠かせません。だからこそ、デザインの力が必要とされています。大学での研究活動にとどまらず、行政や教育現場とも連携し、防災における情報デザインの専門家として、政策提言や教材開発などを通じて社会に貢献できる研究者を目指したいと考えています。また、災害リスクの軽減は平和構築の土台と考えており、将来的には、開発途上国の防災支援にも尽力したいと考えています。

## 一般奨学生

## 自己責任言説が形成した潜在的な排除の意識

## ～就職氷河期世代のライフストーリーから



京都府立大学大学院  
公共政策学研究所  
福祉社会学専攻 博士後期課程1年

## 磯部さざみ

私の研究課題は、かつて流行語ともなった「自己責任」という言葉の意味変遷と拡大が、社会的排除を正当化する言説を醸成した機序を提示することです。

「自己責任」という言葉は1990年代から使用される場面や意味が徐々に変化し、2000年代に入ってから懲罰的な意味合いを強めて流行しました。この変化の期間はバブル崩壊後の長期不況を背景に、日本の雇用構造が急変した時期と重なっています。このことは言葉の流行と人々の働き方や生活の変化が連関している可能性を示唆します。そこで本研究では、雇用構造急変の入り口で就労の世界に参入した就職氷河期世代を変化を生きた先頭集団と捉え、彼らの30年のライフストーリーに織り込まれた「責任」をめぐる意味世界から課題に迫ります。

バブル崩壊後の雇用や人々の生活の変化は、日本社会が「後期近代社会」と呼ばれる段階へ移行したことを意味するとも言われます。後期近代社会研究は欧米で先行していますが、欧米とは異なる経緯を持つ日本の後期近代について、未だ学術的な統一見解はありません。本研究は日本の後期近代社会の理論的枠組みを提示し、その中で社会的排除言説が生まれる機序の解明を試みます。

露骨な排外主義が一定の支持を集めるような現代日本の状況において、本研究が社会的に弱い立場の人に向けられる排除や、その排除を正当化する言説といかに対峙するかを模索する一助となることを願っています。

## 神経活動時のRNA 顆粒の転換：mRNA 貯蔵から局所翻訳への機能転換機構の解明



総合研究大学院大学 生命科学研究所  
基礎生物学専攻  
5年一貫制博士課程4年

## 岡崎摩利矢

私たちが経験を長く記憶に残せるのは、神経細胞のつながりが変化するシナプス可塑性と呼ばれる性質があるためです。この変化を支えているのが、神経細胞の中で起こる「局所翻訳」という仕組みです。局所翻訳とは、刺激されたシナプス付近で局所的にタンパク質を作る過程であり、神経のつながりを制御する上で欠かせません。

私はこの翻訳が行われる場である RNA 顆粒と呼ばれる

構造体に注目しています。刺激がないとき、RNA 顆粒は mRNA を一時的に貯蔵して翻訳を抑え、刺激を受けると性質を変えて翻訳を活性化すると考えられています。しかし、この局所翻訳の ON/OFF を切り替える仕組みはまだ十分に分かっていません。私は神経刺激に応じた RNA 顆粒内のタンパク質の変化を解析し、翻訳に応じた過程を明らかにしようとしています。こうした研究を通じて、シナプス可塑性の分子基盤を理解し、長期記憶形成の解明に貢献したいと考えています。

将来的には、細胞小器官の動的な性質を分子・細胞レベルで統合的に理解することを目指しています。学位取得後は海外で経験を積み、異なる視点や最先端技術を学びたいと思っています。ゆくゆくは研究室を主宰し、オルガネラ動態の研究を通じて生命現象の根幹を探究したいと考えています。いただいたご支援は、研究を深めるうえで大きな励みとなります。この度のご支援に、心より感謝申し上げます。

## Mahjong (DCAF1) を介した神経変性疾患新規治療法の開発



京都大学大学院 医学研究科  
医科学専攻 博士後期課程3年

## 白土尚香

通常、タンパク質は正確な折り畳み構造を保つことで正常な機能を維持しています。しかしながら、老化に伴う

ストレスなどは、立体構造が壊れた異常タンパク質を誘導することが知られています。そして、この異常タンパク質群が細胞内で凝集体を形成し、神経細胞死を引き起こすことが神経変性疾患の原因と考えられています。一度細胞死を起こした神経細胞を生体内で再生させるのは困難であることから、予防・早期治療法の開発が急がれていますが、課題は多く残されています。

私はこれまでに、Mahjong タンパク質が異常タンパク質同士の凝集を防ぎ、人間に元来備わる凝集体形成防止機構として機能することを明らかにしました。現在は、Mahjong を介した凝集体形成防止機構の詳細な分子機構を解析しています。また、Mahjong の持つ凝集体形成防止機構を神経変性疾患の治療へと応用するため iPS 細胞から誘導した神経細胞などを用いた応用研究も進めています。これらを通して、「凝集体形成を未然に防ぐ新たな予防・治療手段」の開発を達成したいと考えています。

研究に興味を持つようになってから、基礎研究の成果が目覚ましく医療の質を向上させた場面を目にしてきました。私も自身の研究成果を通して一人でも多くの人の役に立ちたいと考えています。常に応用の可能性を模索し、医療の発展に貢献できる研究者となれるよう精進してまいります。

## 海洋 CO<sub>2</sub>回収システムを搭載した ASV による海洋酸性化緩和に関する研究



長崎大学大学院 総合生産科学研究科  
総合生産科学専攻 博士前期課程2年  
**橋本美空**

近年、気候変動の主因である人為的な CO<sub>2</sub>排出により、地球温暖化とともに海洋酸性化の進行が深刻化しています。海洋酸性化は、海水中の pH が低下し、カルシウムを材料とする生物の殻や骨格の形成を妨げます。とくに二枚貝（牡蠣、帆立など）の稚貝は影響を受けやすく、実際にカナダではホタテの大量死が報告されるなど、水産業への被害が顕在化しています。このような背景から、海水から CO<sub>2</sub>を電気化学的に除去する海洋 CO<sub>2</sub>回収技術を海洋酸性化緩和手段として研究しています。現在主流となっている技術は陸上施設などの固定式プラントを前提としますが、沿岸海域での局所的な酸性化緩和には、より柔軟で移動可能な技術が求められています。本研究では、この小型システムを ASV（自律型無人艇）に搭載し、洋上で海水から CO<sub>2</sub>を除去することにより、局所的な酸性化の進行を緩和する移動型システムを開発・評価することを目的としています。こうした取り組みを進めるうえで、自然エネルギーに恵まれた長崎の環境で、社会課題と結びついた実践的な研究に挑める点に大きな魅力を感じています。女性技術者として現場経験を重ねながら、持続可能な海洋利用に貢献する技術の開発と社会発信に取り組み、学問と社会実装の橋渡しを担う存在を目指します。最後に、この度のご支援は、私の研究活動を力強く後押ししてくださるものです。このご支援を糧に、一層研究に精進してまいります。心より感謝申し上げます。

### 安井医学奨学生

## 母子保健に従事する保健師に対するトラウマインフォームドケア研修の有効性



東京大学大学院 医学系研究科  
社会医学専攻 博士課程2年  
**西野花葉**

虐待やネグレクト等の小児期のトラウマ体験は、本人の成人期の健康だけでなく次世代の子どもにも悪影響を与えることが明らかとなり、公衆衛生学上の重要課題となっています。トラウマインフォームドケア（以下、TIC）は、トラウマに関する基本的な知識を持ち、全ての人にトラウマ体験の影響があるかもしれないということを念頭に置いて関わる支援であり、養育者のストレスや子ども問題行動の改善、支援者のメンタルヘルスの向上が報告されています。しかし、母子保健領域での TIC 研修の有

効性は十分に検証されていません。私は、保健師を対象に実践に即した TIC 教育プログラムを開発し、動画研修を用いたランダム化比較試験により、支援能力向上への効果を明らかにしようとしています。

母子保健に従事する保健師は、妊産婦や乳幼児に予防的支援を提供できる専門職であり、トラウマ体験の影響を受ける家庭に最も早期から関わるができる立場にあります。保健師への TIC 教育による支援の質の向上が明らかになることで、妊娠・出産・子育てに関わる多くの女性及び子どもに対してよりよい支援の実装が可能であることが本研究の大きな意義です。

将来的には、保健師としての臨床経験をもとに、現場と連携した実践的な研究を重ね、地域に科学的知見を還元できる研究者を目指します。また、TIC を全国の保健師へ普及させる体制づくりに取り組み、母子の健康増進に貢献したいと考えます。

### 社会福祉奨学生

## 近接場光による単分子操作のための第一原理光学応答理論研究



北海道大学大学院 総合化学院  
総合化学専攻 修士課程1年  
**あまのりさ**  
**天野里咲**

化学者の究極の夢の一つは、分子1つ1つを自由自在に制御することです。分子をピンセットのようにつかみ、化学結合をプラモデルのように直接組み換えることができれば、物質の合成や分析は飛躍的に進展すると考えられます。次世代の分子操作手段として注目されているのが、レーザー光と金属ナノ構造の相互作用によって生じる「近接場光」です。近接場光は分子スケールの急峻な強度勾配を持ち、分子に駆動力を与えます。しかし、光の構造が無数に存在することに加え、一般的な光の理論が適用できないため、分子操作はまだまだ実現されていません。

そこで私は、近接場光が誘起する分子のダイナミクスを記述する新しい理論の確立に取り組んでいます。このダイナミクスは、電子状態・分子配置・光場構造が時々刻々と相互作用しあう複雑な力学過程であるため、これら三者をそれぞれ記述する3つの基礎方程式（シュレディンガー、ニュートン、マクスウェル方程式）を組み合わせる計算手法を開発しています。これにより、実験では直接観測できないマイクロな運動機構を解明し、分子操作に最適な光の設計へ応用したいと考えています。

理論開発における私のこだわりは、厳密性だけでなく実用性も高めることです。近接場光による分子操作の研究は、まだ黎明期にあります。将来は、実験研究と協奏しながら近接場光の新しい研究領域を切り拓き、科学の基礎技術の発展に貢献したいと考えております。

## 新春のつどい 第2部

東京支部 植原映子

まず、「新春」という事で、新しい一年をお慶び申し上げます。ここ何年か、サントリーホールでの息子の雅楽の公演と重なっておりました。去年と今年は雅楽が2月になったので、初めて「新春のつどい」に参加できました。素晴らしい奨学生の皆さまがた、それに勢いあるスピーチ。

微力ではありますが、会に参加している事で、女性の高等教育を、「奨学金」という形で応援している事を目の当たりにする事が出来て、嬉しかったです。これを機会に「大学女性協会」に入会してくだされば、ありがたいです。後進のためになりますから。

さて、懇親会では、どなたかが言うておられましたが、「やっぱり、来て良かった。」

美味しいお料理もさりながら、旧友との懇談、新しい人との交わり・・・同じテーブルに、「ヨーデル」を推進してらっしゃる方がいらして、「さすが、大学女性協会の懐の広さよ！」と思いました。

かつて、亡き夫がジュネーブのダルクローズ研究所に留学したので、様子を見に行きました。泊まったホテルの音

楽は、1日中ヨーデルでした。

このように、大学女性協会の会は、参加してみると、予想以上の交流があります。

遠くの会員の皆さまも、思い切って新春の交流会にお出になってはいかがでしょうか。私自身の体験をとおして、お誘いいたしたいと存じます。



出会いを寿ぐ和やかな会場

## 「次世代につなぐ会」

「次世代につなぐ会」委員長

岩村道子

「次世代につなぐ会」では、2025年度公開イベント「未来につなぐ建築・災害と共に」を9月27日（土）14時から16時に対面二会場（東京、京都）およびオンラインで開催しました。今回は建築・災害関連の研究をなさっていた国内奨学生2名に登壇をお願いしました。

松林美樹氏（2024年度国内奨学生）は、地震による鉄筋コンクリート建造物の倒壊を、ひび割れの補修などにより未然に防ぐための技術の開発、AIを活用してひび割れの箇所の予測・補修を行う方法などを話されました。平西明日香氏（2023年度国内奨学生）は、被災者の応急仮設住宅から復興住宅への移転が一般的であるが、熊本地震では木造応急仮設住宅を復興住宅として継続利用していること、さらにそれを可能にした関連制度や立地条件などについて話されました。



お話をする長谷川典子会員

今回のイベントでは、国内奨学生の報告へのコメントーターを長谷川典子会員（茨城支部）をお願いしました。2015年の常総水害の際、当時常総市長でいらした長谷川氏は自宅を避難所として提供なさいました（2023年 JAUW 編集・出版「災害の記憶をつなぐ」第3章）。長谷川氏は、若い世代の災害対策の研究に感銘を受けられたこと、さらにそのような研究の成果や提言を行政機関に粘り強く伝えてゆくことが大切であると述べられました。

質疑応答の時間には3会場の参加者からの種々の質問に、明確に答えられる登壇者の様子が印象的でした。常総市から東京会場にお出かけくださり、貴重なご体験についてもお話下さった長谷川氏に感謝いたします。

## 第19回 J カフェ「家庭科の今とこれから」

生涯学習委員長  
松村和子

お二人の講演から家庭科教育の現場の様子がよく分かりました。家庭科の範囲（防災・震災・介護）がどんどん増えるのに、教える時間は減り、これからもどの様にしたら



熊本県立高等学校教諭  
岡本美和さん  
熊本支部会員



熊本大学大学院教授  
八幡彩子さん  
熊本支部会員

いいのか、特に、これから防災・介護が必要事項に加わるなど、その中で地域の生徒に合わせた授業になるよういろいろ工夫されていることがわかりました。これからも世の中が変化すれば家庭科の学習内容も変わっていくと思いますが、変化に振り回されない不易を大事にして、変化に対応できるしなやかさで家庭科教育を維持してほしいと思います。家政学の中の家庭科とっていたので、家政学と家庭科が違うということにびっくりしました。

家庭科の概念が大きく変わりました。昔ながらの大学の家政科がどんどんなくなる一方、家庭科は独り立ちするためのすべての教養を身につけさせる広範な教科になっていることに驚きました。

総合的に生活を扱えるのは家庭科という科目しかない。家庭科と家政学で取り扱う内容が、現在の暮らしをより良くするためにいかに重要であるかを再確認しました。

## けやき華やぐ秋のアフタヌーンコンサート

文化事業委員会  
藤谷文子

10月15日けやきホールで「けやき華やぐ秋のアフタヌーンコンサート」がテノール吉田連、メゾソプラノ伊藤名佳子、ピアノ京谷光真を迎えて開催された。

文化事業委員会主催のコンサートも回を重ね大学女性協会会員以外で、毎回楽しみにしてくださるファンも増えてきているのは主催する側にとってまことにうれしいことと感じている。年2回の開催に向け委員たちは知恵を絞り、人脈を頼ったりしながら魅力あるものへとつなげている。

今回のテノール吉田連さんは、やはり会員からのご紹介があり、お願いできたことは最高に嬉しいことだった。中堅テノール歌手として今を時めく吉田連さんとメゾソプラノ歌手として注目を浴び、目下活躍されている伊藤名佳子さんのコラボは、始まる前から私としてはドキドキワクワクであった。名佳子さんは最初はソプラノでデビューし、渡仏後メゾソプラノに転向、さらに2年間にわたるシチリアでの研鑽後、6月に帰国したばかりの公演である。伴奏の京谷光真さんもベルギーから帰国直後の新進気鋭のピアニ

ストである。

始まりは吉田連さんのテノール。静かな曲から始まったのだがその美しい声質が心に響き、静かにしみわたっていくようであった。語りも素晴らしく、人の心を引き付ける力を持ち聴衆を虜にした。

伊藤名佳子さんのメゾソプラノも美しく、聞き入っていた。お話も楽しく人柄の良さが現れていた。

このコンサートでの圧巻は、二人による歌曲カルメンの激しく情熱的に歌い上げる姿だった。感動しきりで拍手が鳴りやまなかった。あつと言う間に2時間が過ぎ、私達委員も涙が出るほどうれしかった。

今回は私にとってとりわけ特別な感情が沸き起こってきたのだ。私事ではあるが、伊藤名佳子さんのお祖母様が私の大学の先輩でもあり、大学女性協会の会員で当時の財務委員会に所属されて、長きにわたり活躍されていた羽山昭子さんなのである。

名佳子さんの歌を聴きながら“羽山さん、お孫さんがこんなに立派になられましたよ”と語りかけている自分がいることに気づきハッとしてしまった。ちなみにお嬢様の伊藤真理子さんも当協会の会員で文化事業委員会で大活躍されていることを付け加えておきたい。次回コンサートは6月に行う予定である。乞うご期待！！！！



## 調査・研究委員会 交流カフェ（ユースとの対話） 2025年度活動報告

調査・研究委員長  
片岡 雅子

### ■報告書を起点とした新たな取り組み

3年をかけて実施したユース調査報告書「ケアしあう希望ある社会を目指して～ユースの生きづらさを探る～」は、多くの示唆を与えてくれました。しかし、委員会では「報告書を出して終わりにしたくない」という強い思いが共有されました。

今年度は報告書の提言4「ユースが社会とつながるきっかけづくりとして、世代を超えた対話の場を増やす」を実践する活動として、支部の協力を得て「交流カフェ」を開催しました。

### ■交流カフェの目的

- 報告書後のユースとの関わりを継続する
- ユースの生きやすさを共に考える
- 大人世代として何ができるかを探る
- 世代を超えた対話を通じて「ケアしあう社会づくり」を進める



静岡支部



茨城支部



岡山支部

### ■各支部の実施状況

7月の委員会の方針を確認し、11～12月にかけて複数の支部で対面交流カフェを実施しました。

- 京都支部（11/15）ユース1名
- 奈良支部（11/21）ユース3名
- 静岡支部（11/22）ユース5名
- 岡山支部（11/24）ユース3名
- 茨城支部（12/27）ユース2名

支部によってユースとのつながり方やテーマは異なりますが、社会課題への関心、主権者教育、就職や生活の不安、世代間ギャップ、シニア世代への期待など、多様なテーマが語られています。どの地域でも「対話の場をつくることの難しさ」と「対話が生まれたときの手応え」が共通して語られました。

■現在、報告のまとめ作業を行っています。今後 HP や会報でも順次お知らせいたします。

## 国際交流のカタチ新しく

文化交流委員長  
建部 静代

11月29日（土）に恒例の「リンボウ先生の留学生のための能楽講座」が開催されました。会員・一般の参加者34名、留学生14名です。

ランチ交流会が能楽堂講義室から始まりました。

留学生の自己紹介では「漫画とアニメが日本に興味を持ったきっかけです」と元気のよい声が会場に響きます。

フランスからの留学生は「日本の着物に魅せられて」と。能楽堂の展示室には伝統的な衣装や面がタイムリーに展示されていて案内すると熱心に見つめていました。

日本の暑い夏については「自国の夏の方が暑いので、日本の暑さは大したことがない」と会場がどっと笑いつつまれました。

留学生のみなさんはスマホの翻訳機能をうまく使いこなし、積極的に参加者と会話を楽しんでいました。

13時からの特別公演 能楽鑑賞は各界の重鎮で満席、厳重な警備の中始まりました。

企画公演「明治時代と能」—岩倉具視 生誕200年—

狂言《隠狸》三宅右近（和泉流）／能《石橋一和合連獅子一》金剛永謹（金剛流・人間国宝）。場面最後は白の親獅子の重鎮な舞と赤の子獅子の活発な舞で、囃子方のリズムと

舞の動きが共鳴する華やかな場面展開に会場全体が盛り上がりひとつのうねりとなり、めったに見られない演目でした。

16時20分から能舞台に場所を移し、リンボウ先生こと、林望先生による能楽講座が始まりました。

先生が舞台の上に立ち、1時間の特別講義をなさいました。最後は「橋掛かり」から踵を床から離さず重心の高さを変えずに滑るように移動する「摺り足」の体験をしました。その間、留学生からの積極的な質問にはスマホの翻訳機能が活躍したのはいうまでもありません。

何年かに一度のすべてに充実した内容のスペシャルな1日でした。



モダニズムと日本の伝統美が「混在併存」する国立能楽堂の舞台（練習用）にて



# 支部だより 特別編 セミナー発表6支部

## 気候変動が変えた災害リスク

岡山支部 木口京子

岡山支部のテーマは「自然災害」。令和7年3月に岡山市で発生した記録的な規模の山火事の際に、私が消防団員として参加した話をしたことから与えられたのだと思います。

地球温暖化と山火事の関連性に疑問を持ちながらのスタートでしたが、支部役員メンバーを中心に話し合い、まずは地球温暖化と山火事の関連性を示す研究記事を確認し、山火事に限らず世界中で起きている災害を調べ、気候変動により変わってきた災害リスクについて事例を挙げて報告し、今後の課題と対策について、“くらしの視点”から、特に個人、地域レベルで何をすべきかを考えるきっかけとなる報告を行おうということになりました。余談になりますが、私は、山火事の発生した3月23日は、前日に開催されたJAUW理事会と翌24日の予定のため上京中。15時02分に

消防団出動命令が入り、いつまでたっても鎮圧の連絡がないため、あちこちに連絡を入れ状況を確認し、部屋をそのままにして新幹線に飛び乗り岡山に戻りました。私の所属分団が担当する場所は既に消火を終えていましたが強風のため朝まで待機し、始発の新幹線で再度上京し予定を終えて岡山に戻りました。その後も強風により火はあちこちに飛び、燃え広がり、降雨のおかげで3月28日に鎮圧。最終的に4月11日に鎮火が宣言されました。この間、交替で何度も出動をし、あらためて消防団活動の意義を強く感じました。



消防訓練の様子

## 気候変動と生物多様性の関係とは

仙台支部 長谷和子



2025年2月に開催されたGWIカナダ大学女性連盟「地球温暖化」オンラインイベントで発表の機会をいただいたことをきっかけに、10月の全国セミナーでは仙台支部を代表し、「種の絶滅危機は何を意味するか？」の題目で発表させていただき、大変良い学びを得ることができました。各先生方とスタッフの皆様深く感謝いたします。進化生態学を専門とする私にとって、「生物多様性の保

全」は身近な問題ではありますが、一般的には、なぜ大事なのか？保全するにはどうすればいいのか？という感覚があるだろうと思います。生態学に限らず、専門家の説明がわかりにくいと感じた経験のある方も多いのではないのでしょうか。私はこのような専門家と非専門家の「壁」をできるだけ取り除きたいと思っております。私たちの生活にとって「生物多様性」は重要であることをお伝えできるよう、心がけました。また東北地方沖のズワイガニのエピソードと共に、私の研究対象であるカエルをたくさん取り上げたことで、より熱量を持った発表になったのではないかと思います。幸運なことにJAUWの「次世代につなぐ会」に参加させていただくことで、他分野のお話を聞く機会が増え、自分の専門をわかりやすく伝えることに注意を払えるようになってきたと思います。

## セミナー発表に臨んで

新潟支部 大淵智絵



「コメの様々なプロが数多くいる新潟から、素人が代表然として記録に残る発表まで行く」ことは不安でいっぱいでした。コメの問題はアプローチが幾多も考えられるがゆえに定まらない中、五十嵐支部長の伝手を何人も繋いでいただいて講師を迎え、7月30日に第1回目の学習会を開催しました。その後作業を進め、10月1日には会員による意見交換と検討の会、第2回目学習会として会員で衆議院議員の西村ちなみさんに国政の面からお話を伺いました。

発表にあたり、新潟支部の会員がこの調査を担う意義、調査のオリジナリティーを深く考えました。「小さいころから農家と自然に感謝しお米の1粒まで大事にしてきた」。他にも意見交換で得た支部会員の言葉の数々はその重要な素材になり、私自身も大学でコメを調査した経験を思い出しました。コメは、近年は先物市場への上場など国の方針による社会の大きな動きも見られる一方で、政策穀物の側面もあり、国策に関する調査も欠かせませんでした。多くの資料や視点を15分の発表に整理する中でこの調査を生かしたことは、支部長はじめ支部会員の理解あってのことと感謝しつつ、いくつかの興味深い調査を報告できなかったのは残念でした。「ウェルビーイング」を考え抜くこと、会員それぞれができることで力を結集したこと、外部の協力に感謝しながら力を借りることは当会PRに繋がったとも考えられ、様々に意義を見出した経験でした。

## 北海道水産業の課題

札幌支部 瀧元智恵

6月に企画委員より食糧問題として「水産物について」の全国セミナー発表依頼を受けました。全くの専門外の課題を4ヶ月という短期間で準備できるのか不安でいっぱいなスタートでした。

北海道の水産業の課題を把握するために、消費者・水産業関係者・行政の3つの視点からアプローチしました。

消費者と水産業関係者にはアンケート調査をすることになり、試作アンケートを会員内で答えてもらっては試行錯誤を繰り返してアンケート項目を作成しました。アンケートの回収では支部会員の本領発揮となり、漁業関係者からも貴重な意見を回収することができました。また、北海道

大学水産学部主催の公開講座を拝聴し、専門家の抱える課題にも触れることができ、北海道水産業の現況を理解するのに大きな助けとなりました。

行政の視点としては、北海道水産林務部の発行物をまとめ、加えて北海道庁水産林務部を訪問しインタビューをしてきました。

全国セミナーの準備のための ZOOM ミーティングは計6回行い、支部会員が一丸となって取り組んだ成果を無事発表できたことを嬉しく思っています。



## 「てんぷら油で飛行機を飛ばそう！」に取り組んで

東京支部 坂上栄美子

東京支部は、セミナー副題「～くらしの視点から～」に沿って「再生可能エネルギー」の分野を調べることにした。

家庭の廃食用油を回収し軽油に再生させる事業の先駆者「TOKYO 油田 P」代表の染谷ゆみ氏や環境カウンセラーの崎田裕子氏を招き、遠藤理枝委員をチーフとしたワーキンググループ12名の勉強から始めた。今では廃食用油は SAF（持続可能な航空燃料）にも再生され実際使用されているなど、多くの刺激的なことを学んだ。

しかし、現実には人々はどれほど意識して生活しているか、行政はどのように取り組んでいるかなど、早速実態調査に入った。

タイトルは「てんぷら油で飛行機を飛ばそう！」とし、13項目からなるアンケートを約170名の支部会員に送り、回答数は282名と予想以上の反響があった。

平行して、東京都の全区市町村62と都外8の自治体の HP を検索し、各自治体の取り組みを調査した。

家庭系廃食用油の回収やその周知は徹底していないこと、SAF などに再生するには多額の費用が掛かることなど、問題は多い。それでも日本の一部の企業などが積極的に取り組んでいることも分かった。

セミナー報告は、問題の緒についたばかりである。今後は我々や自治体の意識が問われる番と認識した。



## 再生可能エネルギー ～課題を克服して明るい未来を～

長崎支部 梅田和子



新潟総会の折、秋のセミナーで「再生可能エネルギー」がテーマの一つであることを聞き、会社員時代（三菱重工長崎造船所火力プラント設計部）の上司（現東京大学生産技術研究所研究顧問）からもらっていた2024年7月号の「火原協会誌」の「変動性再エネ VRE の課題とその解決策—安定性再エネ SRE の積極的推進—」の論文を今野理事に送ったところ、興味を持たれ、講演依頼を受けました。

上司に相談すると「カーボンニュートラル時代の新しい

火力発電“FlexPower”」の論文と2月の鹿児島での講演資料を送付いただき、是非講演を引き受けるようにと背中を押され、それらの資料を基にセミナーの PowerPoint を作成、添削をしてもらいました。

再生可能エネルギーは、自然環境に依存し、負荷調整が不可能な太陽光・風車の変動性エネと負荷調整能力を保有する水力・地熱・バイオマスの安定性再エネがあること、また自然エネは善、火力発電（化石燃料特に石炭）は悪というイメージは根強いものがあるが、技術が進み石炭の CO<sub>2</sub> 削減により太陽光と石炭火力は最強の組み合わせになる。

日本の世界に誇る IGCC\*技術と燃料電池 SOFC\*技術の活用で課題は解決可能で、石炭火力 HyGreenProject によって、途上国への活用も含め、明るい未来に期待したい。

\*IGCC: 石炭をガス化し、高効率かつクリーンに活用する次世代発電システム

\*SOFC: 水素などの燃料から、電気を作り出す装置

\*みなさまの支部で紹介をなさりたい先輩・同輩、あるいは歴史や活動などを、是非、広報委員会までお知らせください。

第28回大学女性協会守田科学研究奨励賞授賞式・受賞講演会

第28回守田科学研究奨励賞授賞式および受賞講演会、祝賀パーティーを下記の要領で現地開催いたします。(第3回若手女性科学者海外研修助成事業対象者の報告を併せて行う予定です。)多くの皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。

日 時 2026年6月7日(日)  
 授賞式 11時00分～11時15分 (Zoom 配信有)  
 受賞講演 11時20分～12時30分 (Zoom 配信有)  
 若手女性科学者海外研修助成事業報告  
 12時30分～13時00分 (Zoom 配信有)  
 祝賀パーティー 13時10分～15時00分  
 会 場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
 住所:〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25  
 TEL:03-3261-9921  
 交通アクセス: <https://www.arcadia-jp.org/access/>

祝賀パーティー参加費 5,000円  
 受付開始 4月15日 (WEB 申込を予定)  
 \*授賞式の開始時刻を11時としております。ご注意ください。  
 \*受付詳細は WEB ページをご参照ください。

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

期間:2025年11月1日～2026年1月31日  
 寄付者人数:22名、寄付金額:446,500円  
 上記期間中の寄付者ご芳名(敬称略・支部別50音順)  
 (茨城)牧島悠美子、吉田紘子 (長野)徳田節子  
 (東京)安東桂子、大井恭子、加藤聖子、加納孝代、窪田憲子、  
 向後紀代美、庄司ヨシ、辻英子、土部元子、中山正子、  
 長谷川瑞穂、鷲崎千春 (神奈川)鷲見八重子、房野桂  
 (愛知)伴紀子 (神戸)三木谷節子 (長崎)鈴木千鶴子、  
 辻佳子 (賛助)西村攝子  
 全体期間:2021年4月30日～2026年1月31日  
 寄付者延人数:404名、寄付総額:5,534,100円

寄付金の振込先口座

銀行:ゆうちょ銀行  
 名義:一般社団法人 大学女性協会  
 ① 払込取扱票(郵便振替)で行う場合  
 口座記号及び口座番号:00130-0-587701  
 ※パトリア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、  
 そのまま使用可能です。  
 ② 他行から振込の場合  
 支店名:〇一九店  
 口座種類及び口座番号:当座 587701  
 ※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

お詫び 286号掲載の寄付者ご芳名に間違いがあり、たいへん失礼いたしました。(一般)小川泰子様を小林泰子様と訂正してお詫び申し上げます。

理事会から

- ▶ 「司法を女性と女兒に身近で強固なものに」と掲げる今年のCSWは3月9日～19日ニューヨークで。JAUWでは稲葉みどり(愛知)、加藤澄恵、宮下摩維子(東京)の3会員が参加します。なお国際会議参加若手支援への応募はありませんでした。
- ▶ 本年度の国際奨学生2名の報告会が1月22日と3月5日にそれぞれ実施されました。次号でご紹介します。
- ▶ EXPO2025企画「政治における女性たち」のネット上の住所(URL)が変わりました。QRコードはこちら→字幕も選べます。是非ご覧ください。



第1部



第2～3部

文楽の魅力

収益事業委員会

JAUWの収益事業委員会による文楽の鑑賞が2025年12月4日に池袋の芸術劇場でありました。出し物は「万才」と解説、近松門左衛門の冒険物語「国性爺合戦」です。今回は文楽のわかりやすい説明があり理解が深まりました。私は、人形を一人の人が操ると何となく思っていたのですが、今回の説明を聞いて、3人がそれぞれ役割分担して人形遣いをしているところの歳になって初めて知り驚きました。文楽ならではの顔の動きからまるで生きているかのような感情が伝わります。人間の役者ではできないことを人形だからこそ演じる。これが300年も続く伝統文化の秘訣でしょうか。鮮やかな手の込んだ美しい衣装、太夫・三味線弾きの心に響く演奏、歌、踊り、お芝居と贅沢な時間です。文楽を次の世代が大事に引継ぎそして世界の人々へこの楽しさが伝わることを願っています。

初夏のコンサート

文化事業委員会

大田佳弘 & 和田萌子ピアノリサイタル  
 ～独奏 & Duo Plaisir 連弾～

数々の受賞歴やCDリリースなど、ソロとしてもデュオとしても高い評価を受ける大田佳弘さんと和田萌子さん。

それぞれのソロと、息の合った二人が織りなす、煌めきと躍動感あふれる音色をお楽しみください。

日時:2026年6月23日(火)14:00開演(13:30開場)

会費:4,000円(全席自由)

会場:古賀政男記念音楽博物館げやきホール

地下鉄千代田線・小田急線 代々木上原駅 徒歩3分

出演者:大田佳弘 和田萌子

申込み:fax・メールで3/31(火)から受付予定

会報に詳細チラシを同封します。



新入会員 理事会承認 2025年11月～2026年2月

新潟支部 河内 美帆 東京支部 久米 一世  
 岡山支部 池本 昌美 岡山支部 小西 陽子  
 岡山支部 中本亜希穂

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリア信濃町テラス101  
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
<https://www.jauw.org> E-mail:jauw@jauw.org  
 発行人 長谷川 瑞穂 編集責任者 端本 和子  
 発行日 2026年3月9日